

木育で生まれる地域再生 〜鳥海山木のおもちや美術館の挑戦〜

秋田県 由利本荘市教育委員会 生涯学習課
鳥海山木のおもちや美術館統括担当
課長待遇 佐藤 弘幸



はじめに

秋田県由利本荘市は、市の約75パーセントが森林面積という恵まれた森林資源を有していることから、平成28年度から「木育推進事業」を主体とした様々な事業を展開しています。

その中で特に力を入れてきたのが、国登録有形文化財の旧鮎川小学校（廃校舎）を活用した「鳥海山木のおもちや美術館」整備事業であり、従来からの課題であった

冬期間を含めた子どもの遊び場の創出だけでなく、多世代交流機能をもった施設を目指して整備に着手し、平成30年7月



旧鮎川小学校

1日にオープンを迎えたところであります。

令和元年10月末現在、市が計画（推計）した2倍以上のお客様にお越し頂き、指定管理者であるNPO法人スタッフの皆さん、ボランティアのおもちや学芸員さんの尽力により順調に運営されています。

全国的に課題となっている「廃校舎の活用」や、豊富な森林資源といった「あるもの」を上手に活かしていくこと、そして木工職人の育成や運営をお願いしたNPO法人に至るまで、地域住民を主体にした「木育事業」の取り組みを紹介します。

事業実施までの経緯

平成26年9月、私が総務課在籍時に設立した「由利本荘市地域を支える人財育成塾」から「豊富な森林資源を活用した施策」を提言して頂いたことから「木育事業」への取り組みがはじまりました。

同年12月に開催した木育推進庁内検討会議で事業を進めていくことを確認し、平成27年度からは市民への周知を図るこ

とを目的に、木育キャラバンや木のおもちや製作講習会などを開催しながら、木のおもちや美術館整備事業に取り組んできました。

整備基本構想を作成するにあたり、①木造校舎の佇まいを最大限活かす、②子どもから高齢者まで多世代の住民が交流できる施設を目指す、③地元産の木材を活用し地元の職人の手で製作する、④地域に古くから伝わる民具等を有効に活用する、というコンセプトを決めることからスタートし、このコンセプトは今も変わらずに持ち続けています。

豊富な森林資源の活用、市民からの「子どもの遊び場」を要望する声、廃校舎である国登録有形文化財の「旧鮎川小学校」の利活用の、3つの歯車が回ったことにより「木のおもちや美術館整備事業」の実施に漕ぎ着けることができたと思っています。

鳥海山木のおもちや美術館の概要

築65年の木造校舎の佇まいを最大限活かすため、施設全般にわたり地元産の木をふんだんに使用した施設整備を行って

います。
 ちようかいタワーやツリーハウス、26
 室の遊びの小部屋が並ぶ「もりのあそび
 ば」や、グッド・トイに認定されたおも
 ちゃで遊べる「グッド・トイサロン」、
 そして木のぬくもりが優しく2歳以下の
 子どもが安心して遊べる温かい空間の
 「ハイハイひ
 ろば」など、
 館内には子ど
 もたちの声が
 元気いっぱい
 に響いていま
 す。

また、地域
 に古くから伝
 わる民具を展
 示し、昭和初
 期の生活模様
 が映像で見れ
 る「ゆきぐに
 の民具展示
 室」、子ども
 が喜ぶだけに
 とどまらず、
 大人の遊び心
 をくすぐる木
 のおもちゃを
 豊富に取りそ
 るえた「トイ
 ショップ・
 トッカ」や、



教室（グッド・トイサロン）



屋内運動場（もりのあそびば）

地元産米を羽
 釜で炊いた塩
 つけおにぎり
 と、ゆり根う
 どんのセッ
 トが人気の
 「キッチンカ
 フェ・キノ」
 など、1日滞
 在しても遊び
 きれない見所
 満載の施設と
 なっています。

多世代交流の取り組み

館内には赤いエプロンを着用した、鳥
 海山木のおもちゃ美術館ボランティアス
 タッフ「おもちゃ学芸員」が子どもの遊
 びを見守っています。

この「おもちゃ学芸員」は、年齢層は
 60歳以上の高齢者が6割を占めており、
 退職してから地域のために何かをした
 い、孫が遠くに住んでおり子どもと触れ
 合える仕事したい等、それぞれ様々な
 目的を持って活動されています。子ども
 からおもちゃの遊び方を聞かれたり、保
 護者から施設のことを聞かれたり、来館
 者との「ふれあい」によって、イキイキ
 した表情で活動されています。

また、木工職人による木工体験ワーク
 ショップを定期的に開催していますが、



教室（ハイハイひろば）

地域には昔遊びが得意な高齢者、木工、
 竹細工の得意な高齢者など、まだまだ多
 くの人財がいます。この貴重な人財を
 ワークショップの講師に招き、自分が得
 意なものを子どもや保護者に教える機会
 を作ることで、生きがいの創出、多世代
 交流の取り組みにつながるものと考えて
 います。

なお、幅広い年代層に利用していただ
 けるよう、親子で遊べる木のおもちゃだ
 けでなく、昔懐かしい木のおもちゃやア
 ナログゲームなども配置しています。

最後に **今後の展望について**

鳥海山木のおもちゃ美術館の開館に伴
 い、廃校により賑わいを失った場所に子
 どもたちの声が響く昔の学校の雰囲気
 が戻り、地域住民をはじめ市民の新たな出
 番の創出、ハードだけでなくソフト面の
 好影響に繋がっています。

長い歴史が刻まれている「学校」に
 は、廃校してもこの学校で学んだ多くの
 方々の想いが残っています。この校舎そ
 して地域の賑わいを再生していくために
 は、地域住民の理解があつてはじめて成
 り立つものと実感しています。

今後、地域に愛される施設として、
 地域住民（特に高齢者）が更に関わりを
 持つて頂けるようなプログラムを考え、
 来館者が気持ちよく楽しんで頂ける施設
 を目指していきたいと考えています。